

現在実施中の調査研究について

コロナ禍における妊産婦の心身の健康状態とパートナーシップの実態

大阪行岡医療大学 荒木智子
理学療法士，医学博士



Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

すべての家族に産後ケアを届けるために

みんなの産前・産後 調査研究プロジェクト



背景

COVID-19の妊産婦への影響

流行前に比べて抑うつが発症が増加していた。(Matsushima et al, 2020)
感染症流行による外出控え等の行動変容によって人々の身体活動量が減少している。(Tison et al, 2020)
感染症影響下における2020年5月、6月の配偶者間暴力の相談件数は前年同月の1.6倍に増加した。(内閣府、2020)

調査目的

産後女性の心身の健康状態および行動制限による身体活動量の変化とパートナーシップの実態を明らかにすること

調査方法ー研究対象者などー

研究対象者

妊娠中～産後一年未満の女性

- ✓ 妊娠中、もしくは産後一年未満の方
- ✓ マドレボニータの教室に参加し、事前事後のアンケートにご回答いただける方
→ 日本財団による助成により教室参加が無料となる

- 産後ケア教室(対面)
- 産後のバランスボール教室(対面)
- 産後ケアオンライン教室 75分×4回コース
- 産後ケアオンライン教室 60分ショートレッスン

倫理的配慮

- ✓ 日本体育大学倫理審査委員会(第020-H021号)、大阪行岡医療大学研究倫理委員会(第21-0001号)による承認を得て実施。
- ✓ 参加者に研究実施前に十分な説明を行い、同意を得てからご協力いただく
- ✓ 途中で同意を撤回した場合でもプログラムを継続できることを示した

調査方法ーwebアンケート調査ー

研究デザイン

記述的研究 (Descriptive study)

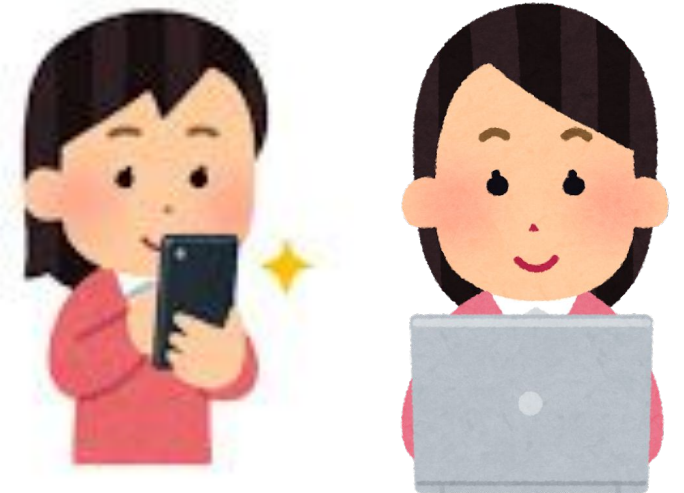
データ収集方法

Webアンケート調査

- ✓ プログラムの受講前に送付
- ✓ 2021年4月より開始、1000名を対象に実施中

アウトカム

- ✓ コロナ禍による生活の変化
- ✓ パートナーとの関係性
- ✓ こころの健康状態
- ✓ からだの健康状態
- ✓ 身体活動量
- ✓ 健康関連QOL (生活の質)



仮説と実施状況

仮説

コロナ禍による生活の変化

妊産婦の生活の変化

こころの健康状態

からだの健康状態

パートナーシップ

身体活動量

健康関連QOL

実施状況(7/27現在)

- ✓ 産前 送付 30人、回答 27人(回答率90.0%)
- ✓ 産後 送付582人、回答528人(回答率90.7%)
- ✓ マドレボニータの教室初参加の方が約6割
(産前66.7%、産後65.7%)

